

交流フロア運営会議—特別版—（議事概要）

1 日時・場所

平成29年7月1日（土） 15:30～17:00

伊丹市立図書館ことば蔵 1階交流フロア

2 参加者数 29人

3 会議内容

5周年記念の特別回であり、今回は10年後のことば蔵について考える

①—いたみアーカイ部（ブ）—

放っておいたら消えてしまうような伊丹の「記憶・記録」をデジタルな媒体に記録し「アーカイブ」として残したい。

◆経緯：伊丹市内の石碑を自分の足で歩いて記録し、サイズまで測ったものを一覧にして綴じられているものを図書館で見かけた。

記録方法：最初は冊子でも、コピーしたものが綴じられているという状態でも良い。

今はデジタルな記録も簡単にできるので、ウィキペディア、オープンストリートマップといった記録も方法も行いたい。5年後、10年後に郷土の歴史を学びたいと思った人がアーカイブを参考にし、「伊丹はきちんと記録が整備されている」と感謝されるようなものを目指したい。

②—ことば蔵でベルマーク運動—

◆経緯：小学校中学校を卒業してしまうと、集めたベルマークを回収してもらう場所がない。

ことば蔵、また各分館にベルマークの回収箱を用意し、回収したベルマークで図書館に必要なものを購入。市民サービスの充実を図ってはどうか。

参加者からの意見

・ベルマークについては各小学校も力を入れて集めている。ことば蔵が回収拠点になれば、各校の回収を阻害することにならないか。図書館は公共施設なので、そのあたりの立ち回りを考える必要があるのでは。

・小学校などにつながりのある人（小学生の子どもがいる親など）は、回収ルートがあるが、つながりのない人にとっての回収場所となればよいのではないか。小学校と対立するのではなく、ベルマークを持っていく場所がない人たちの受け皿となればよいのではないか。

③—心に残っている「ことば」選手権—

◆経緯：ことば蔵にちなんで、心に残ったことばをみんなに伝え、大事にしていくようなイベントを開催したいと感じた。

概要：あなたの心に今でも残っている「ことば」について日本全国から公募。

応募内容は、①心に残っている「ことば」、②誰が言った「ことば」なのか（小説の登場人物等も可）、③その「ことば」を聞いて感じたこと。一人一点限りとし、誹謗・中傷は禁止。
既存のタイトルだけグランプリのように、誰かに審査してもらって、表彰などしたい。

④ことば蔵を観光地に

◆経緯：5周年記念シンポジウムからヒントを得て

ボランティアのトラベルアドバイザーさんに常駐してもらい、伊丹の観光案内や夜の街を案内してもらおう。図書館は外国では観光地として地球の歩き方などに掲載されている。ことば蔵に観光案内所としての機能を持たせてはどうか

④ー2伊丹空港・伊丹のホテルの利活用

伊丹そのものに観光に来なくても、翌朝伊丹空港を利用する人は伊丹に滞在する。

ホテルにミニライブラリーを置き、そこに来る人に「伊丹のおすすめ」を案内する仕組みや「ことば蔵」の利用を誘致する仕組みを作る。時間はかかるが、観光客が集まるのではないかな。

・旅行客が本を置いていける棚の設置。また、そこから自由に本を持って帰ることができる仕組みを作ってみてはどうか。

例)「ディープ伊丹市民が送る、伊丹市に来た人に読んでほしい本」など

→伊丹の街に繰り出すきっかけづくりになる。

・伊丹シティホテルにカエボン棚を置くのも面白いのではないかな。

旅行客が本を置いていき、自由に借りていける仕組みを作る。わざわざそのホテルに泊まるという流れが出来れば、市の魅力が更に増す。

⑤図書館離れする世代を呼び込むためには

大学生は大学時代にプラス体験があれば、また母校に帰ってくる。つまり、図書館でプラス体験があることもたちは、迷ったときに図書館に戻ってくる。その仕組みを構築すれば、若い世代が図書館を利用するようになり、未来の運営会議を担ってくれる人材も育つのではないかな。

例) こども運営会議を行い、こどもたちの意見を取り入れた図書館運営を行う。

発展しない例 → こどもの意見を大人が頭ごなしに否定してしまう。

成功する例 → 会議で決定したことを大人が全力で実現する

ことば蔵の良さは運営会議の決定事項を全力でサポートしてきた市民力。大人が全力でサポートして企画を実現すれば、若い世代ももっと図書館を利活用してくれるのではないかな。
その結果、運営会議にも幅広い世代が集まるようになり、未来の図書館につながる。

⑤ー2 高校生～20代前半のための読書会について

地道に定期開催していれば、いつか「本を読んでも良く分からない」という若者がきてくれるのではないかな。青少年に対するアプローチは少ないのが現状なので、自習室などその年代が比較的訪れやすい場所に案内を掲示。時間はかかるが、同年代が同年代を呼び込むような仕組みに。